

2020年2月12日

JVOAD

令和元年台風19号被害への対応状況等について（2月12日12:00現在）

台風19号で被害を受けた各地で情報共有会議等が開催され、活動状況や課題などを共有し、解決に向けた連携が行われています。状況に応じて、県域、市町村域、被災エリアごとに支援団体同士が集まって、開催しています。JVOADからもスタッフが参加し、会議の中で共有された課題に対して関係団体と解決を図っています。本日12:00時点で把握した状況についてご報告します。

○最新の被害状況（2月12日9時現在 総務省消防庁資料）

<https://www.fdma.go.jp/disaster/info/items/taihuu19gou65.pdf>

人的被害：死者99名（うち災害関連死2名）、行方不明者3名、重傷者40名、軽傷者341名

住家被害：全壊3,280棟、半壊29,638棟、一部損壊35,067棟、床上浸水7,837棟、床下浸水23,092棟

○情報共有会議の開催

JVOADのホームページでも各地の情報共有会議の開催予定一覧を定期的に更新しているので、あわせてご確認ください。（2月12日現在）

○現地の状況

①東北方面（宮城県・福島県）

- ・1月29日、宮城県丸森町で大雨による避難勧告が出され、一時避難所10か所（避難者11名）が開設されたが、特に大きな被害は出なかった
- ・福島県いわき市では、2月から生活支援相談員3名が訪問しながら、状況確認をしていく
- ・福島県いわき市内の避難所は1月25日に閉鎖されたが、居住先は決まったものの家電等そろっていない世帯もあるため、支援団体の方で継続してサポートしていく
- ・複数のサロンが実施され、制度や家屋再建などの相談の場となっていることから、情報共有会議内にて支援者同士で参加の呼びかけをしている

②北関東（栃木県・茨城県）

- ・栃木県佐野市では、地元のボランティア有志が集まり「さのボラねっと」を立ち上げ、ボランティアセンターとも連携しながら、泥出しやニーズ調査などを実施
- ・栃木県宇都宮市では、複数の支援団体が協力して炊き出し、家屋再生勉強会を継続的に実施
- ・茨城県常陸太田市では、大規模半壊の世帯が多く、工事待ちのお宅も多いため、サロン（ぬくもりを届けるプロジェクト）実施に向け調整中

③長野県

- ・地域の集会室も被災しているが、1階の床をはがした後、2階を住民に開放してサロンを実施している
- ・農ボラ2期の募集を行っているが、2月16日（日）のみの活動
- ・情報共有会議の中では、住民自らがサロンの実施を検討していたり、震災後初めて会合を持ち、何か動き出そうとしている様子が見られることが共有された

④千葉県

- ・「千葉県南部災害支援センター」の協力のもと、千葉県・JVOAD主催で技術系支援団体を講師として、

長期化するブルーシートの張り直しに対応するため、消防職員、消防団員、建築業者等を対象に、ブルーシート展張講習会を実施していく（2月21日～3月15日）

○災害ボランティアセンター

複数の市町村で、引き続きボランティアセンターが開設（事前登録が必要）

開設状況については、全国社会福祉協議会 被災地支援・ボランティア情報をご覧ください

URL：<https://www.saigaivc.com/>

○今後について

JVOADとして、長野県にスタッフを常駐、その他の地域については出張ベースで対応しています。

地域支え合いセンターの設置などもされ始め、相談員による仮設や在宅避難者への訪問も始まっています。

在宅避難者の状況把握、仮設住宅（建設型・みなし等）に入った方への継続的支援など、課題は残っていますが、地元団体への引継ぎも見据えながら、支援の「モレ・ムラ」のないように各関係団体、機関と連携して、引き続き、サポートしてまいります。